

第十八中学校 地域教育協議会（すこやかネット）

協働授業に関する見学レポート

6月9日（火）5～6時間目に、第十八中学校で実施された協働授業を見学しました。

「協働授業」とは、学校職員と保護者がともに子どもと一緒に活動する授業であり、毎年さまざまなテーマのもと実施されています。

今年度は、1年生が「大人と生徒が協働して学ぶコミュニケーション」、2年生が「人は何のために働くのかを大人と一緒に考える」、3年生が「沖縄修学旅行を通して平和について考える」をテーマに取り組んでいました。

1年生の授業では、地域の方々とともにサイコロトークや折り紙を用いたグループワークが行われていました。子どもたちはコミュニケーションの取り方を意識しながら、楽しそうに対話する様子が見られました。



2年生は、5時間目に地域の方や保護者へ「働く上で大切にしていること」や「価値観」についてインタビューを行っていました。実際に大人の考えを聞きながら、自分たちの価値観と照らし合わせて考える様子が見られました。6時間目には、「コメ作り体験」を通して学んだことを発表していました。



3年生は、修学旅行で学んだ内容をもとにパワーポイントで資料を作成し、保護者や地域の方々に向けて発表していました。その後、「平和」をテーマに、自分たちの考えを言葉にして意見交換を行っていました。

また、6時間目には体育館へ移動し、「安里屋^{あさとや}ユンタ」を地域の方々を紹介するとともに、子どもたちがレクチャーを行い、実際に一緒に踊る場面も見られました。



全学年を通して、子どもたちが地域の方々や保護者との関わりの中で、主体的に学習に取り組む様子が見られました。大人に「教えてもらう」というよりも、「一緒に学ぶ」姿勢が感じられ、非常に活気のある授業で印象的でした。

また、蛭池小学校でも同様の取組が行われているとのことで、子どもたちが幼少期から地域の方々と関わる機会が多く設けられていることがうかがえました。こうしたつながりが、中学校での主体的な学びにもつながっているように感じられました。

当日は、地域の方々や保護者、小学校教員も参加されており、多くの方々が子どもたちの学びを支えていました。協働授業を通して、学校・家庭・地域が連携しながら子どもたちの成長を見守る、第十八中学校区ならではの取り組みの魅力を感じることができました。